鉄砲洲神社素読論語　解説
（平成 25 年 10 月 11 日）

【一五】定公問う、一言にして以て邦を興すべきもの諸れ有りやと。孔子対えて曰く、言は以て是の若く其れ幾すべからず。人の言に曰く、君為ること難く、臣為ること易からずと。如し君為ることの難きを知らば、一言にして邦を興すことを幾せざらんやと。曰く、一言にして邦を喪すもの諸れ有りやと。孔子対えて曰く、言は以て是の若く其れ幾すべからず。人の言に曰く、予　君為ることを楽しむ無し。唯その言いて予に違うこと莫きなりと。如し其れ善にして之に違うこと莫くんば、亦　善からずや。如し不善にして之に違うこと莫くんば、一言にして邦を喪すことを幾せざらんやと。

これは孔子 50 代の頃、魯の定公との問答です。

「一言で国を興すような素晴らしい言葉はあるであろうか」昔はあったと聞くけれども、今もあるであろうか、ということが中に入っています。孔子が答えて言うには「なかなかそれは難しいでしょう」一言で国を興すという言葉、効果のある言葉はありません。しかし昔の人が言うには、自分の身を慎しみ驕って人を見下すようなことをしないで、一生懸命国政に従事すれば、一言で国を興す効果のあることが期待できるでしょう。言い方を変えれば、あなたが畏れ慎むという氣持ちを持っていれば、良い言葉を聞いた時に、ハッと悟るでしょうし、心の中で驕り高ぶっていれば、いくら良いことを聞いたとしても駄目でしょうね。

「一言で国を滅ぼしてしまうようなものはあるだろうか」これは胸に手を当てて考えればいっぱいあると思います。こちらの方が大変ですね。一言で国を滅ぼすというもの、これはなかなか一言で言えるものではありません。しかし昔の人が言うには、主君が述懐をした科白で、私が人の上に立つ身分になって、何も楽しいと思うことはなかった。しかし一つだけ楽しいと思うことは、自分が言ったことに対して、国民が何も疑わずその通り実行をしている。そういうことを目の当たりにするのは非常に楽しいことである。これを聞いて孔子は、君主が善いことを言った。国民が違うことをしないのは非常に結構なことだけれども、もし君主が間違えていて道理に外れるようなことを命令した時、家臣がみな分かりましたと言って実行し続けているようであれば、その国は滅びることでしょう。

夫婦の場合も同じですね。夫婦でいえば、大黒柱である主人が道に外れるようなことを言っても、奥さんは意見もしないし家族も唯々諾々としてお父さんの言うことに従っている。そういう事をもし続けている家庭があれば、その家庭は崩壊するであろうと考えれば

良いし、会社で見ても、今の日本政府でみても同じことが言える。従って、これは国であっても家庭であっても大変だということです。滅ぼそうと思うと簡単に滅ぼすことができるけれども、平和を続けることや素晴らしい国や家庭をつくるというのは、相当努力をしないと出来ませんねというのが、どうもこの中に含まれていると感じます。